

総会を3年ぶりに開催

晩登会（鳥取中央育英高同窓会）は8月11日、倉吉市内ホテルで総会を開き、向こう1年間の活動方針を決めた。生徒数の減少によって財政は厳しいが、年2回の同窓会報発行、同窓生美術展の開催、晩登会奨学金の給付などの活動は堅持する。

コロナ禍のなか、3年ぶりの総会開催。愛称「晩登会」を名乗るようになってからは初めて。今回は入場制限をし、約50人が出席。前年度活動報告および決算、本年度活動計画および予算を原案通り決定した。

佐伯健二会長は「母校支援の気持ちを固める重要な総会」と挨拶した。

予算収入（約520万円）の主な内訳は、繰越金約230万円、同窓会活動協力金180万円、卒業する生徒の入会金約110万円。

支出は、同窓会報発行50万円、同窓会職員賃金40万円、支部育成強化39万円、卒業生へ贈る入会記念品29万円、美術展20万円、奨学金20万円、総会開催15万円など。財政難のため支部総会などへの補助金（出席1人当たり）を1500円から1000円に減額した。

役員改選は、会長はじめほとんどが留任。飯田正征副会長が退任、代わって津川俊仁さん（昭和52年卒、北栄町）が新任した。

総会後は、北栄町青山剛昌ふるさと館館長の河崎積さん（昭和51年卒）が「マンガを活かした地域活性化」と題して講演。約30人が懇親会を楽しんだ。

以下は会長の感想

「総会会場の正面看板「晩登会総会」は書家の山田美鈴さん（昭和58年卒）によるものです。背筋が伸びました。山田さん、ありがとうございます。前回総会の出席者は200人超でした。入場制限を取っ払って、ワイワイガヤガヤ楽しめる日が一日も早く来ることを強く願っております」

